様式 C-7-2

自己評価報告書

平成 21 年３月３１日現在

研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究期間：2006～2009
課題番号：18390164
研究課題名（和文）急性期医療における有害事象による医療費構造の変化と質保証コストに関する検討

研究課題名（英文）A study on cost to prevent adverse events in acute care hospitals.

研究代表者 大道　久（OHIMICHI　HISASHI）
日本大学・医学部・教授
研究者番号：60158805

研究分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：境界医学・医療社会学
キーワード：リスクマネジメント、医療安全、有害事象、機会費用、病院予算、コスト分析

１．研究計画の概要

本研究は、医療における有害事象の発生によって投入された医療費または資源にどの程度の増加・変動が生じたかを把握するとともに、回避可能であったと考えられた有害事象に着目してその防止のために必要となる資源または費用を推定することで、事故防止と医療の質保証のために投入されるべきコストのあり方を検討することが目的である。そのために、現在の病院医療において、医療安全確保のために人的・物的資源がどの程度投入されているかの現況を把握することが基本的な課題である。

２．研究の進捗状況

まず、これまでに蓄積された事故事例を分類・区分し、その種別と重症度などについて取りまとめるとともに、頻度が高く医療費への影響が大きい有害事象の種別、あるいは資源投入量の多い分野を選定し、手術を含む治療・処置、および転倒・転落等の療養の世話を中心に分析を進めることとした。また、有害事象発生事例の医療費分析などに理解と協力の得られる病院 16 施設の医療安全管理責任者の参加を得て、医療安全の専門家を加えた研究協力者会議を組織して、調査研究の体制の整備を行った。

次に、16 病院を対象に医療安全確保のために投入されている人的・物的資源の現状を把握するための調査を実施し、リスクマネジャーの配置や医療安全管理委員会等の開催、あるいは医療安全に向けた研修会の実施などに伴う人件費と、安全に配慮した薬剤を使用した場合の費用の増加、感染管理のためのディスポ材料、転倒・転落を防止するための用具・設備のための費用、感染性廃棄物処理費用等もデータを入手した。

これらの調査結果を分析する過程で、専従医療安全管理者の配置や医療安全委員会の開催等の人的資源の投入状況は安定したデータが入手できるが、安全に配慮された医薬品の使用や事故防止のための用具・備品・設備の導入に関する単年度のデータは信頼性の観点から制約が大きいことが明らかとなった。そこで、人的資源の投入状況についてより多くの病院を対象に調査する必要があると考え、専従者・管理者等の安全関連の直接業務のみならず、医師・看護師等の医療従事者が医療安全確保のために委員会出席や研修会参加などで費やされた機会費用を把握する方法を検討した。これらの人的資源の投入に関する調査は、全国の 1,600 病院を対象に実施され、現在回収中である。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

理由：

回避可能であったと考えられた有害事象の防止のために必要となる資源または費用を分析する過程で、事故防止には日常的な病院の組織的な予防活動が基本であることが認識された。事故防止と医療の質保証のために投入されるべきコストのあり方を議論するには、わが国の病院医療における資源投入状況を把握することが基本であることが認識された。平成 20 年度に実施された 1,600 病院を対象とした人的資源の投入状況に関する大規模調査の実施はこのような考え方に基づくが、現状を有効に把握するための調査票の設計に多くの時間が割かれた。調査は

実施されて現在回収中であるが、約 50%の回収が見込まれている。医療安全のためのコストの分析は概念の整理や、事例の収集・分析と事後の扱いなどにおいて困難な課題に直面し、研究作業の進捗は必ずしも円滑ではなかったが、上記の大規模調査の分析も踏まえて最終的な成果を出したいと考えている。

４．今後の研究の推進方策

研究協力病院 16 施設からの詳細な医療安全のための費用データは貴重であり、さらに解析を進めることとし、それを受けた大規模調査の結果を分析することが今後の課題となる。わが国の医療における安全確保のための資源投入の現状が明らかとなれば、今後の医療安全に向けた施策にも有効であり、多くの病院にとっても予算編成や事故防止活動において参照される成果となることが期待される。

一方、医薬品や医療材料の安全な使用のために、バーコードやＩＣタグによるトレーサビリティを確保した運用が有効であることが認識されつつあり、医療現場での適用が求められている。運用のための費用と得られる効果についての検討は本研究のテーマに適合するので、個別課題として検討に着手した。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 7 件）

１）大道　久：医療安全と費用、医療と社会、Vol.16、No.4、ｐ307‐308、2007、査読無

２）大道　久：医療安全確保のコスト、週刊社会保障、第62巻、第2469号、ｐ32‐33、2008、査読無

３）H. Ohmichi, Y. Umesato、et al; Reporting system on adverse events from accredited hospitals in Japan Council for Quality Health Care, Proceedings of ISQua's 23rd International Conference (London), p68, 2006, 査読無

４）大道　久：医療事故報告制度の取り組み、東海病院管理学研究会年報、平成１７年度、ｐ37-41、2006.1. 査読無

〔学会発表〕（計９件）

１）橋口　徹、大道　久、梅里良正、寺崎仁、安田信彦、遠矢雅史：急性期医療における医療安全確保のための活動にかかるコストについての実証研究（第三報）～多施設における研究フレームワークの適用、第 46 回日本医療・病院管理学会学術総会、2008 年 11 月、静岡県立大学（静岡）

２）寺崎　仁，横山容子，菅原浩幸，遠矢雅史，大道　久：病院の医療安全管理のための人的資源と地域ネットワークに関する研究－認定病院患者安全協議会の会員病院へのアンケート調査－、第 46 回日本医療・病院管理学会学術総会、2008 年 11 月、静岡県立大学（静岡）

３）橋口　徹：医療安全管理と地方公会計の役割、国際公会計学会（第 24 回中部部会 研究報告）2008 年 7 月、南山大学院サテライト・キャンパス（愛知）

４）Hashiguchi T., Ohmichi H., Umesato Y., Terasaki H. Yasuda N., Toya M. ; Design for patient and healthcare workers safety cost reporting: Analysis and visualization of the cost for patient and healthcare workers safety ; The International Society for Quality in Health Care (24th International Conference), October 2007, Boston（USA）

５）橋口　徹：病院の社会的責任活動報告の一環としての医療安全コスト計算書の提唱、日本会計研究学会、2007 年９月、松山大学（愛媛）

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

〔その他〕